ろさうておれにてき、我がとのの兵衛佑は尺八論てうたれた

午ノ七月□日

百野　吉田久次（花押）

これらのことから、元禄三年（一六九〇）には舞が伝授されていたことがわかる。元禄三年の記録は、舞が伝えられたことを示すものとしては県内最古の資料である。

川内甚句

七月十六日、天山文庫前で開催される天山祭りの会場で、また九月十五日に行われる諏訪神社の祭礼に川内村全般で踊られるもので川内甚句は、いわゆる盆踊り形式である。

1　ドントドントと鳴るせはどこだ　あれは深山の滝のおと
2　今年しゃ豊年だよ　穂に穂が咲いて道の小草にも米がなる
3　道の小草に米なる時は　山の木かやに金がなる
4　おらが川内自慢じゃないが　山にこ金の花が咲く
5　踊り踊るならしなよく見よく　しなのよい娘を嫁にとる
6　踊りそろたのになぜ唄きらす　うたでかためたこのおどり
7　やぐら太この音だときけば　ねむい目もあく気も勇む
8　ねてもねむたい十六七は　朝の朝草夢で刈る
9　若いときゃ二度ない皆様方よ　少し大目に見ておくれ